

## ばか殿様と部落の人のはなし

### ばか殿様と部落の人のはなし ①

むかしむかし、みなみやまの部落の者たちは、殿さまのとりたてがきびしくて困りきっておったどお。みな衆は庄屋のところを集まって、どうしたらよかんべいかと相談したんだどお。そしてものためしで、殿さまを困らしてやろうとたけのこ汁をごちそうしてやることにしたんだどお。殿さまは百姓どもがどんなものを食べさせるのかと、わずかのともをつれてやってきたんだどお。さて昼めしどきになってたけのこ汁がはこばれてきたが、部落の者たちには、やわらかい筍。殿さまの腕のなかには、青竹をこまかく切ったものをと区別したんだどお。殿さまが見ていると、部落の者はそれをうまそうに食べていて、殿さまも真似て食べたどお。だが固くて歯がたたず、ほうほうの体でお城へ逃げ帰って「あやつめたたちの知恵にはかなわぬわい。」ととりたてをづつと軽くしてくれたどお。

### ばか殿様と部落民のはなし ②

むかしむかし、ばか殿さまが、みなみやまの部落によばれて行ったんだどお。そしてかわやにもようしくなった。さて用がすんだあと大声で手水を出せと部落のものにいつけたんだどお。そうしたら頭の長いものどもがやってきて、首をふりふり殿さまのところへかしこまったんだどお。手水が長頭と早合点したのである。殿さまはさすがに感心して、たいそうおほめのことを頂戴したんだどお。